

中野市行政改革推進委員会 会議録（要約）

日 時	平成27年2月18日（水） 14：55～17：40
会 場	本庁舎31号会議室
出席者	<p>【委員】 丸山会長、小山副会長、涌井委員、山田委員、北村委員、岡村委員、渡辺委員、東委員、小林委員、市村委員、湯本委員、藤澤委員</p> <p>【市】 総務部長、健康福祉部長、子ども部長、経済部長、建設水道部長、消防部長、豊田支所長、会計管理者、教育次長</p> <p>【事務局】 政策情報課長、行政管理係長、宮崎副主幹、小林主査</p>
欠席者	<p>【委員】 横澤委員</p> <p>【市】 くらしと文化部長、議会事務局長</p>
次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 会長あいさつ 3 協議事項 <ol style="list-style-type: none"> (1) 前回会議での意見について (2) 第3次集中改革プランの追加について (3) 第3次集中改革プランの目標設定等について 4 その他 5 閉会
資料	<p>資料1 第3次行政改革大綱及び集中改革プランに対する意見等</p> <p>資料2 第3次集中改革プラン追加予定プラン</p> <p>資料3 第3次集中改革プラン進捗管理シート</p>

1 開会

(総務部長)

2 会長あいさつ

3 協議事項

(1) 前回会議の意見等について

※事務局説明

【会長】

質問、意見などありますか。

【委員】

新庁舎問題についてはかなりの反対がある。市民会館については建て替えて何に使うのかという声も聞く。建て替えがなぜこの時期なのかという疑問の声が多い。

借金をして将来の財政についての説明が市からない。補修、補強で対応している自治体もたくさんある。人口減少の中で大事業を行う価値があるのか。

【総務部長】

庁舎と市民会館について、市民も含め平成25年度に公共拠点施設立地に係る検討会で検討した結果、庁舎は現地で、市民会館は旧中野高校跡地に建て替えとしました。

近年の建築単価の高騰等によって庁舎と市民会館の両方では健全財政を堅持していくことは厳しいと判断し、また、地震などの防災の拠点となる庁舎が必要との判断もあり庁舎を先に整備することとしました。

【委員】

建て替えも結構だが、災害時のこと十分に考えて、もう一度練り直していただきたい。

【委員】

今回の庁舎建設に関しては一市民として一委員としてどうしても賛成できない。

中野市は財政に余裕があるわけではない。市長は、以前、民間感覚で考えると言っていた。行政においても、お金をつぎ込んだら利益を生むという感覚を持ってもらいたい。行政における利益とは、市民の生活がより良くなること、教育福祉、産業発展などにお金をかけ市民が潤うことである。

市の庁舎建設には何の利益があるのか。市民会館を先に造れば現市民会館を壊せるではないか。それから庁舎を造れば良いと思う市民が圧倒的に多い。

【総務部長】

先ほども申し上げたように、現在の庁舎で、もし、有事の際に業務が出来なくなるような事態になれば市民の支援が出来なくなる可能性があります。そのようなことから、まずは、有事の際の防災の拠点として庁舎を先行して整備させていただきたいと考えています。

【委員】

あの東日本大震災で建物が壊れたのは、ほとんどが津波による被害である。鉄骨というのは結構強いものである。庁舎を造る理由付けで耐震構造などと言っているのではないか。市民を騙しているようにしか聞こえない。

行政改革推進委員会で、無駄を無くして将来の少子化社会に向けて取り組んでいくとしているが、このような細かなことをしても庁舎建て替えに多額の費用を使い市民の利益にならないことをするのはおかしいことである。

【委員】

両委員が言われたことは、ごもっともなことである。

しかし、数日前の新聞に、中野市の近隣である自治体が長野市中核都市のメンバーに入りそうだと書いてあった。何年か先には、北信地方事務所管内で一つの自治体とならざるを得ないと思う中で、庁舎建設は全く無駄にはならない。

ただ、今回の矢継ぎ早に決められた決め方などが理解を得られていないのではないか。鉄筋コンクリートであれば耐用年数は60年位で、それを建てるというのであれば、よくよく立地を考えないといけない。現地南側建設だと市民が出入りする庁舎玄関が常に凍結している状態はおかしい。市民にとって何だか訳の分からないうちパッと決められていくやり方は、非常に残念で後で悔いが残るのではないか。

現市民会館を壊して北側に庁舎を建てるのが、北信地方事務所管内の中心都市に成り得る中野市の姿ではないか。

【委員】

建設が南側になったということで、先日ハガキを出した。

行政改革推進委員会でも意見が取り入れられるのか疑問だ。会議を開いて委員の意見を聞いても、無視されてしまうのではと疑問に感じる。

【会長】

市民からも、本委員会の中でも新庁舎に関する意見が多く出ている。本委員会としては十分慎重な対応をお願いしたいということにしたい。

他の関係でご質問などありますか。

【委員】

ふるさと納税の関係で、事務局からH26年度の現時点で5千万円という説明があった。周辺自治体では億単位であった。なぜ中野市は5千万円だけなのか。その分析はされているのか。

【事務局】

細かい分析はしていませんが、お礼の割合が自治体によって違っています。ふるさと納税は、手続きが簡明であるとかお礼の品物が良いとかで選ばれる方が多いようですので、それに向けては新年度で考えていきます。

【委員】

基本的には、一つひとつがどうこうではなく、職員が怠けているだけだ。頭を使って

どうすれば市民のためになるか真剣に考えていない。

結果を求めれば、立派なことはやらなくていい。ただ、言い訳は聞きたくない。だから、職員の意識改革が必要だ。いくら我々が立派なことを言っても、やるのは職員だ。

市税の収納にどれだけ努力して取り組んでいるのかわからない。ただ催促の電話をしているだけなのか、本人と会って話をしているのかわからない。もっとしっかりやってもらわないと困る。

【総務部長】

滞納整理に関しましては、未納の方に来ていただいて、事情をお聞きしながら滞納整理に努めているところです。最終的には差押えまでさせていただいています。

【委員】

なるべく早くやらないと職員が変わってどんどん遅れる。

【総務部長】

職員が変わるときは当然に引継ぎをしますが、滞納については時効もありますので、早く取り組むべきものを決めまして滞納整理をしています。

【委員】

先日、テレビを観ていたら甲賀市の職員が忍者の格好をして業務をしていた。そのような意識改革も必要ではないか。

No.13で「遊休資産の活用及び売却」について、先行取得したところはどうなっているのか。

【建設水道部長】

手元に資料がありませんが、土地開発公社で現在持っている土地は、長嶺の山林に公園を造るときに先行取得した土地があります。街中にもございますが、別の形で使用しています。

【委員】

先行取得した土地は全部処分できているということか。

【建設水道部長】

ほぼ、できています。

【委員】

次回の委員会までに報告をお願いしたい。

【会長】

報告するようお願いしたい。

【委員】

No.17「給食センターの集約化」について、豊田にある学校給食センターはH26年度をもって廃止すると聞いているが、どこからそのような話になったのか。

【事務局】

市ではそのような方針は出していません。

【委員】

給食センターを廃止するという話になると学校の統廃合に影響しかねない。大変デリケートな問題であるので気を遣いながら検討していただきたい。

【委員】

私は学校給食センターで使用する米の納入組合をやっている、豊田のセンターは設備面などで中野のセンターより少々劣る面があり、近々中野のセンターと一緒にやったらどうかという話が出ていた。食ということを考えるとデリケートになった方が良くもいけない。

【委員】

前回の会議でも触れたが、豊田給食センターの給食は、非常に美味しいと聞く。地元の団体が食材を納入している。食育ということを勘案しながら給食センターの集約化を検討して欲しい。

【委員】

前回会議で「行政改革という削減することが目的と思われがちだが、そうではなく市民が満足できる生活を送れるかどうかの方が本当の目的である」とあり、私も同感だ。市民あつての行政改革であり市民が満足できる改革が大切だ。

庁舎建設について、長野県北部地震で栄村の人々は新しい庁舎を造っておいて良かったと言う声を聞く。あの庁舎で事務をし、寝泊まりしながら支援や行政を行ったという報告もある。立派なものでなくとも耐震設備の整った施設は必要である。非常に使い勝手の悪い場所に建てると決められつつあるが、先ほど会長にまとめて頂いたのでは控える。

No.16「各地区コミュニティー消防センターの集約化」について、消防団については各地区で定員確保に苦しんでいるが消防団が集まる施設は必要だ。

【委員】

No.25「ぽんぼこの湯・もみじ荘・まだらおの湯の利活用」について、指定管理料に金額があるものかないものがあるがどういうことか。

【経済部長】

3つの温泉施設については、基本的に市から指定管理料を出さない施設となっています。ただし、ぽんぼこの湯の支出につきましては、経営が厳しいということではなく、市の都合などで休業していただいた分になります。もみじ荘の指定管理料は隣接するゲートボール場に係る部分で、そこは独立採算性というわけにはいきませんので運営経費等を支払っているものです。

【委員】

もみじ荘、まだらおの湯で廃オガのペレットボイラーを導入したが、それは支出の中に入っているのか。

【経済部長】

ボイラーは、市が購入し設置したものですので、収入支出には含まれていません。た

だし、使用にあたってのペレットの経費は支出に含まれています。つまり、設置後の燃料費などは指定管理者の支出となっています。

【委員】

ボイラーを設置しての費用対効果、燃料費の効果がわかるなら教えていただきたい。

【経済部長】

手元に資料がありません。

【会長】

次回会議までに調べておいて欲しい。

【委員】

No.27「北部子育て支援センターの解体」について、岩井と越に施設があるがどちらなのか。

【子ども部長】

北部子育て支援センターは、旧高社保育園で越にあります。

【委員】

岩井にある施設は何か。

【子ども部長】

旧倭保育園で、現在は貸している施設となっています。

【委員】

北部子育て支援センターは風光明媚で利用者にも評判が良い。廃止はしないで欲しい。

No.36「中央子育て支援センターの利活用」について、他施設との複合化も含め代替となる施設を検討しますとは端的にどういうことか。

【子ども部長】

中央子育て支援センターにつきましては空いている公共施設、民間施設などの状況を把握しまして代替になる施設を検討していきたいと思っています。

【委員】

地方紙の慶弔欄から出生数を大体計算すると年間250人位しかいない。四ヶ町の出生率は少ないと思うのでそのようなことも考えていただきたい。

支所にある教育委員会を本庁に移動するなど、やたら中野地域に集めたがっているように見受けられる。高齢化社会になると反って地方へ持っていった方が良い場合や便利な場合もある。窓口業務は北部公民館、西部公民館で足り年寄りも喜んでのことなども考えていただきたい。

【委員】

少子高齢化や人口が減少していく中で、今の規模の行政を維持できるのかが皆さんの心配事のような。

市民へのサービスは欠かせないのであれば、一つには全て行政に任せるのではなく、指定管理者制度など民間の力を借りて効率的にやっていただくことと、市民もサービスを受けるだけでなく協働の社会として一定の役割を担っていくことが必要である。行

政は市民の意見をよく聞いたうえで、市民はそれ相応の協力をするような進め方が良いのではないかと。

【委員】

No.28「さんさん館の利活用」について、さんさん館とはどういう施設か。

【健康福祉部長】

さんさん館につきましては、高齢者の方の学習の場です。社会参加の一助になればという施設のことで、主に教養講座などを開いたりする活動の場となっています。

【委員】

高齢者のための施設であれば閉鎖して欲しくない。

【委員】

人口が減っていき住民税の減少も考えられる。庁舎、市民会館の建て替えも考えなければならぬと思いつつ、現在ある施設はお金がかかることなので本当に進めていいのか考えさせられる。もう少し先を見通して真剣に考えていかなければならない。

【委員】

先程、委員からあった「立派なことは言わなくていい。結果が出ればいい」ということが全てを集約している。施設など色々考えながら推進しているが、これから若い人たちに住みやすい中野市として住んでいただきたいので、利用しないから止める、無駄だから取り壊すではいけない。

また、市民の声を聞くというのはどのように行われているのか。漠然と聞いているだけのような気がする。よりよい中野市になるように職員の方々がもっとそういう場を設け、若者の声、年寄りの声を集めながら進めていただきたい。

【総務部長】

市として、タイムリーに企画段階からなるべく多く市民の皆さんの声をお聞きできる機会を設け、市民の皆さんには忌憚なく積極的にご意見を聞かせていただきたいと思っています。

【委員】

No.36「中央子育て支援センターの利活用」について、代替施設を検討するとあるが、施設の老朽化ということなのか。

【子ども部長】

中央子育て支援センターは、大変利用者が多く、現在手狭となっています。

【委員】

支援センターは、少子化と保育園の充実で減るであろうという意見もあるが、保育園に入る前のステップとして親子が安心して利用する場である。今後も利用は多いと思うので大切にしていきたい。

(2) 第3次集中改革プランの追加について

※事務局説明

(3) 第3次集中改革プランの目標設定等について

※事務局説明

【会長】

ご質問やご意見などございますか。

【委員】

資料3の43ページに「庁舎建設後10年経過し、修繕費が増えてきており」と書かれているが、これなら小中学校はどうなるのか。20年も30年も過ぎているので考え直して欲しい。

どこの市町村でもそうだが、人口減少で市民の考え方は変わってきている。周辺自治体は本当にそういう危機感を持っている。市も将来を見据えて危機感を持って対処して欲しい。

私は市の職員と接してきたが、皆さんよい人で能力のある方だ。ただ、欠点を挙げるとしたら新しいことをやる能力が無いような気がする。下の人が新しいことをしようとすると上の人がそんなことはやらなくていいと言っているのではないか。これからの市政の運営としては、若手の職員が色々な意見を出し、それを汲み上げて如何に一定の予算の中で市民のために尽くすかということを考えて欲しい。

【委員】

市の職員は本当にご苦労されていると思うが、やはり、そこをもう一步超えて無駄なお金を使って欲しくない。

【委員】

中野市には合併前の任意合併協議会から携わってきた。行政改革とは、削ることが目的ではなく削ることは手段である。これを取り違えると延々として悔いが残る。これをお願いして素晴らしい中野市を創っていただきたい。

【委員】

会議となると必ず資料が届き、それについて検討するとなるが検討委員会等であげた意見に対しては答えが無い。市民目線になり、まずい所は改革していかなければならない。職員には努力してもらいたい。

【委員】

中野市は豊田地域が無ければ存続できないという危機感を持っている。新幹線が飯山に来て、ふるさとということになれば豊田地域へ行くしか方法はない。

庁舎建設について、もう1、2年検討した方がいいのではないかと要望したい。

【委員】

保育園も老朽化してきていくつか建て替えるが、嘱託職員が半数以上いる。施設だけでなく、保育士の資質向上が子どもたちの安全やより良い保育につながるので、新規職員の採用を増やしてほしい。

【委員】

小中学校の適正規模について答申があったが、資料3だと平成27年度で方向性を出したいということなので、この答申の中身を理解し、地域住民との話し合いを十分にもっていただくことが重要である。今年の倭小学校は3人しか入学しない。来年の永田小学校は3名と聞いている。地域住民が納得できる状況で適正規模、適正配置をまとめていただきたい。

【委員】

行政改革は削ることでは無くて今のあり方をプラスしていくこと、住民のより良い生活を築き上げることを検討していただきたい。

資料3の43ページで、支所の「建設後10年経過し、修繕費が増えてきており」とあるが、あの立派な建物が修繕を必要としているのか不思議ではない。

少子化で学校の統廃合も仕方がないと思うが、豊田給食センターには地域の野菜や産物を届け小学生等と交流しながらやってきた。なるべく存続するようお願いしたい。

【委員】

マイナンバー制が今年から始まり、これにより収納率の向上が図れるよう今後市で考えていただきたい。

福祉や医療や教育の問題など行政が担う部分は多いが、就労の場がないと若い人は出て行ってしまい、人口減少は加速することにつながる。非常に厳しい状況にある中で頑張っている商工業者の活性化にも、行政としてもう少し手助けを考えていただきたい。

審議会等で真剣に中野市の将来について話し合うが、やはり、20代、30代の若い方の夢のある意見を是非取り上げていただきたい。夢が無いと後ろ向きになり、中野市に住みたいという人も少なくなってしまう。

商工会議所は「信州中野」に改名した。先日の市のアンケートで、現在のままで良いというような結果になったが、もう少し設問を考えて欲しかった。

市民の皆さんが夢を持てるような、それを助けるような施策に取り組んでいただきたい。その中の一つが公共施設のことになる。

【副会長】

住み良い市となると一長一短にいかない。

収納率の関係だが、滞納金額が少ないうちに差押えなど取り組んでも良いのかなと感じた。

【会長】

皆さんから大変貴重な意見をたくさん出していただきありがとうございました。中野市を想い行政改革の推進に対して大変建設的な意見がたくさん出たと思います。市の職員の皆さん方には、今日出ました意見十分反映頂きまして、平成27年度の目標とプランの達成の全力を挙げて取り組んでいただきたいと私の方からお願いしたい。

議事の方は以上で閉じさせていただきます。

4 その他

- 行政改革推進本部会議へ諮り、追加と目標設定について最終決定としたい。
- 次回委員会は、平成27年7月頃、今年度のプランの実績を検証していただく。

5 閉会

終了 17時40分